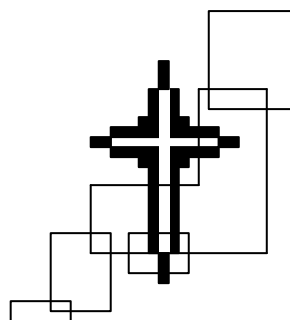


# 日本のための とりなし

わが国のために祈りましょう  
ニュースレター6月号  
2003年6月1日発行



日本のためのとりなしの会  
事務局：〒228-0802  
相模原市上鶴間6-1-17 皆川方  
TEL042-747-5703  
FAX042-746-2119  
http://www.Christ-ch.or.jp/  
\*振替：00270-7-6421

委員長：皆川 尚一(神奈川県)  
委員：友納 徳治(福岡県)  
手束 正昭(兵庫県)  
林田 金弥(神奈川県)  
行澤 一人(大阪府)  
久保 有政(埼玉県)  
釘宮 義人(大分県)

長谷川 乃武男(東京都)  
協力委員：  
町田 誠(千葉県)  
中原 耕平(千葉県)

## 日本宣教論序説 (第6回)

日本に伝来したキリスト教

〔第5波〕欧米キリスト教の渡来

(1859年～1945年)

ヨハネ皆川尚一

### 1. 天主公教会の復興

1858年(安政5年)に日本はアメリカ、イギリス、ロシア、オランダ、フランスの5カ国と修好通商条約を結び、鎖国の扉は大きく開かれました。1859年(安政6年)にはジラール神父がローマから日本教区長代理に任命されて9月に横浜に上陸しました。ジラール神父は1862年に横浜の本村境に天主堂を建設しました。1865年大浦天主堂の献堂式の日には3名の隠れキリシタン婦人がプチジャンに信仰を告白したことが発端となり浦上、外海(そとめ)地方、五島、天草、平戸、そして筑後今村の隠れキリシタンたちとの連絡が秘かにとられました。ジラール神父の推定では約5万人の隠れキリシタンが新しい天主教徒(カトリック)として復活していたということです。その後1868年浦上四番崩れとして知られている大迫害が徳川幕府治政下で起こり、約3000人のキリシタン裁判は、その年のうちに明治新政府に引き継がれました。政府は天皇の前での「御前会議」を経て、死一等を減じて全員流罪と決定しました。これに対し英

国行使ハリ・パークスを初め列強公使から抗議が行われましたが、若き日の大隈重信(30歳)が日本側を代表して熱弁を振るい「内政干渉」として彼らの抗議を退けました。こうして3394人の浦上村キリシタンは20の藩に預けられ重労働を課せられ、過酷な拷問にかけられました。彼らは1873年(明治6年)にキリシタン禁制の高札が撤去されるまでの5年間、信仰を保って逆境に耐えて村に帰って来ました。いわゆる「旅」の間に殉教の死を遂げたものは662名に及んだと言われています。

浦上キリシタン問題によって、「信教の自由」を求める諸外国の要求に屈した明治政府は極端な神道国教化政策を改めるのを余儀なくされました。キリスト教徒は明治17年までキリスト教に則った葬儀を行うことを許されず、神仏いずれかの方式で行うことを強いられました。

また、先にジラール神父が記したように5万人の隠れキリシタンが全部新しい天主教徒として復活したわけではありませんでした。彼らの中には隠れている間に変質して神仏と同化した独特の信仰と伝統を受け継いでいる者たちや、大浦天主堂のフランス人神父を祖先から7代待ち続けたパーデレの後継者と認められない人々や、復活するための指導者を持たなかった人々など、色々な理由で復活できなかつたと考えられています。(片岡弥

吉著「かくれキリシタン」p.288-292『復活しなかったわけとその性格』参照)

このようなわけで、キリシタン解禁の1873年(明治6年)の信者数は1万5千名で長崎地方の復活キリシタンが大多数を占めていました。

復活した天主教(日本、朝鮮、支那では漢字でこのように表記した)は、プロテスタントのように盛んな伝道活動を展開せず、教育事業、社会事業、医療事業などを通じて日本社会の中へ福音の浸透を企て行きました。神父たちの中には例えば群馬県の前橋へ行った人のように、宣教師として日本人と同じ家に住み、同じ食べ物を食べ、なるべく同化しながら布教する宣教師もいましたが、この教会はすべての点において余り伝道的でなく、表面的な伝道がないにもかかわらず教勢は次第に拡大して行きます。1933年(昭和28年)の統計によれば日本内地だけで函館から鹿児島まで12教区、これに台湾、朝鮮、南洋の3教区を加えれば15教区になります。内地だけ見ると、教会228、聖職265、信者9万2千161人です。(桜井匡著「教派別日本基督史」【1934年】参照)

## 2. ロシア正教会宣教師の渡来

ロシア正教会は西暦紀元第11世紀にローマ・カトリック教会と訣別して東方に発展したギリシャ正教から出ています。そこで一般的にはこれを東方教会と称し、ローマ・カトリック教会を西方教会と称しますが、正教会(オルソドックス)というのはギリシャからロシアへと発展したもので、総称するならば東方正教会と呼ぶのが適切であると考えます。なぜならば正教会より前に、シルクロード沿いに支那から日本まで到達した東方キリスト教会があったからです。

それはさておきロシア正教会の司祭が初めて日本に渡来したのは1859(安政6)年で北海道の函館にロシア領事館が設立されたときに赴任してきた領事に伴われて司祭マアホフが来日、領事館内に敷設された聖堂で儀式を執り行いました。しかし、彼は1年余りで病気のため帰国し、その代わりに司祭ニコライが派遣されてきました。ニコライは神学大学

在学中にロシア海軍少佐ゴロウニンの書いた「日本幽囚記」(1816年)を読んで日本伝道を志していましたので、勇躍して日本赴任の途につき、1861年6月2日函館に到着しました。時に25歳でありました。

初めてニコライに接して正教会信者となったのは沢辺琢磨(たくま)でした。彼は土佐の坂本龍馬の従弟で、当時函館神明社の神官であり、攘夷論者でしたから、28歳の血気にまかせてニコライを切ろうとして乗りこんだ所「正教を学びもせずにして邪教と断ずるか」と諭されて、聖書を学ぶことにしました。沢辺は学ぶうちにこれこそ日本国を救う教えであると悟り、二人の友人に伝道し仙台の同志たちを函館に招きました。彼らはキリスト教によってこそ、日本の宗教改革と国民の教化は成し遂げられると確信しました。こうして函館と仙台に正教会信者が生まれたのです。そこでニコライは一時ペテルブルクにもどってそこに日本伝道会社を設立して、自ら社長となり伝道資金補給の道を開いて後函館に帰着。更に司祭アナトリイの函館着任を待ってから東京に伝道の本拠を定めるべく上京しました。そして神田駿河台の火消屋敷を買い取って有名なニコライ堂を建てました。

函館では明治4年(1872年)の頃には信者の数は100人を超えていました。明治7年ニコライは東京で日本正教会第1回伝道会議を開いて、伝道規則を定め、東京、仙台、水沢、宮城、岩手、秋田、函館、名古屋、岡崎の伝道担当者を定め、青森、山形両県には巡回伝道者を置きました。このように短い年月の間に教勢は伸展し、明治38年(1905年)には信者総数2万8千746人に達したのです。

しかしながらニコライは明治45年(1912年)2月77歳と一期として帰天し、京都のセルギイ主教が大主教となり、熱心に奉仕しましたが、第一次世界大戦の勃発、ロシア共産革命の発生により正教会の日本伝道は大打撃を受け、更に関東大震災の追い打ちをくらって、昭和7年の信徒数は1万6千563人に減少しました。

## 3. プロテスタント宣教師らの渡来

プロテスタントとは16世紀にローマ・カト

リック教会に反対して宗教改革を行ったルターやカルヴァンの流れを汲むキリスト教の総称です。

#### (1) [発端]

さて、プロテスタント宣教師渡来の始まりは次の通りでした。1858年(安政5年)日米修好通商条約が結ばれて間もなく、日本におけるキリスト教伝道の調査が行われました。その仕事に当たったのは米国伝道会社の宣教師 S.W.ウイリアムズ、米国聖公会牧師 E.W.サイル(Syle)、パウハッタン号の軍隊付牧師ヘンリー・ウッド(Wood)の3名です。3人はそろって長崎に上陸し、長崎奉行に面会しました。すると奉行は彼らに言いました、「日本は既に外国との貿易を始めたことであるから、外国人の持ってくる物は何でも受け入れる。ただし、二つのものだけは輸入されるのを好まぬ。それはアヘンとキリスト教である」と。そこで3人は相談をし、従来日本にカトリックの誤ったキリスト教が伝えられて邪宗門の誤解を生んだのであるから真正のキリスト教を宣べ伝えることにしようと決めました。こうして彼らは米国の聖公会、長老教会、改革教会等の伝道局に対して宣教師派遣を求め手紙を送ったのです。

この要請に応じて、各教会から派遣された宣教師は、1859年から1863年にかけて以下の通り来日しました。

聖公会から：J.リギンス(Liggins)、C.M.ウイリアムズ(Williams)

長老教会から：J.C.ヘボン(Hepburn)、D.タムソン(Thompson)

改革教会から：C.R.ブラウン(Brown)、D.シモンズ(Simmons)、

J.H.バラ(Ballagh)

これらの宣教師たちは未だキリシタン禁制の高札が立てられていたので、主として日本人に英語を教えたり、日英辞書、ローマ字の発明、医療活動、病院の設立等を通じて福音を伝えるという方法で伝道を進めました。

#### (2) 第2期(1874年~1890年)

1873年(明治6年)のキリシタン禁制解除により、キリスト教は待望の合法的伝道時代を迎えました。そこで主要な三つの変化が起こりました。

#### 1) 伝道地盤の拡大

キリスト教の伝道地盤は大都市から地方の中小都市や農村へと拡大し、士族階級から一般庶民へと拡大して行きます。これは自由民権運動と併行して進められました。

#### 2) 日本人伝道者による独立自給伝道

初めは外国宣教師による伝道で、日本人はその命令とサポートに従って伝道していましたが、急速に日本人青年伝道者による独立自給伝道へと転換して行きました。横浜キリスト公会の小川義綏(よしやす)、弘前公会の本田庸一、上田公会の稲垣信(あきら)、安中教会の海老名弾正らです。

#### 3) 「バンド」と呼ばれるキリスト者集団の結成

明治時代のキリスト教は力に満ちて活発な伝道を展開して行くのがその特徴です。このまま行くと日本は遠からずキリスト教国になるのではないかとさえ思われました。この時代のキリスト者は大多数が武士階級の出身で天下国家を論じ、神の御意思に従って新しい日本国家を建設しなくてはならないという共通のヴィジョンに燃えていました。そのために神道や仏教を捨ててキリストに回心するという対決型の戦略を取ったのです。こうした状況のもとで「バンド」と呼ばれるキリスト者集団が日本各地に生まれました。バンドとは信仰による同志的結合をいいます。

その代表的なものは三つあります。

\* 横浜バンド：ジェームズ・バラの開いた英語塾から結成された。

\* 熊本バンド：L.L.ジェインズ(Janes)大尉指導の洋学校から。

\* 札幌バンド：W.S.クラーク大佐指導の札幌農学校から。

これらが日本におけるプロテスタント宣教の源流となりました。

#### 4) キリスト教各派の形成

\* 日本基督教会：横浜バンドから始まり、日本基督公会と長老教会とが合同。

\* 日本組合基督教会；米国会衆派、基督公会の一部と熊本バンドが合同。

\* 日本聖公会：米国聖公会の伝道による。

\* 日本バプテスト教会：米国バプテスト派の伝道による。

\* 日本メソジスト教会：米国メソジスト派の伝道による。

5) 天皇を中心とした国家主義とのかかわり  
明治政府は1885年(明治18年)頃から欧化主義をとり、日本近代化政策を打ち出しました。いわゆる鹿鳴館(ろくめいかん)時代です。こうした時代の流れを受けて、キリスト教反対論者であった福沢諭吉などもキリスト教国教論を唱えました。ミッションスクールは欧化主義の花形となって上流階級の子女が続々と入学し、上流階級のキリスト信者が増加しました。伝道地盤は中の中から中の上、更に上流階級へ移って行き、キリスト教は都市型の知識人的キリスト教になって行きます。プロテスタントの信者数も1885年から1890年の5年間で1万1千名から3万4千名に増加しました。

しかし、明治政府の狙いは、日本近代化のためのキリスト教利用政策に過ぎませんでした。政府は明治維新以来、皇室神道に基づいて天皇の神格を強調し、天皇崇拜を中心として国家を統一する政策を着々と進めて来ました。軍人勅諭(1882年)、大日本帝国憲法(1889年)、そして教育勅語(1890年)等が次々と発布されました。この教育勅語は初めにキリスト者の文学博士・中村正直(まさなお) = 敬宇(けいいう)が時の文部大臣から委嘱されて原案を作成し、これを哲学者の井上哲次郎が修正したものと言われます。これを国民教育の基礎とし、各官庁や学校において教育勅語への拝礼、天皇・皇后両陛下の写真(ごしんえい)への拝礼が求められました。又、憲法の中での「信教の自由」も天皇からの特別の恩恵であると政府は意味づけして、それに対する感謝の表明としてキリスト教会が国家の政策に協力するように求めました。これに対し、キリスト教会自体の中からも協力して当然であるとの議論が盛んに出たのです。

1889年2月11日憲法発布の当日、キリスト者の文部大臣・森有礼(ありのり)は伊勢神宮に対して不敬行為があったとの噂により伊勢神宮神官西野文太郎に暗殺されました。又、1891年キリスト者の第一高等学校教授内村鑑三が教育勅語に対する拝礼をせ

ず、会釈だけで済ませたことが不敬事件として大々的に非難され、日本全国からキリスト教に対する非難攻撃が起こりました。キリスト教は日本の国体と合致しない。忠君愛国の精神に反するものだというのです。これに対して当時の有名なキリスト教指導者(内村鑑三、植村正久、柏井園(えん))たちは、「キリスト教は忠君愛国と矛盾せず、反ってこれを完成・成就するものだ。表面は恭しく拝礼しながら教育勅語の精神に違反する不忠・不道徳な輩とは異なり、キリスト者は勅語に対する拝礼はせずとも勅語の精神を深い敬意をもって受け入れ日常生活の中に立派に実践して行く真の愛国者である」と反論しました。

こうした出来事を背景にして、1894年(明治27年)に日清戦争が始まると、キリスト教界はこぞって戦争協力の態度を打ち出したのです。演説会、パンフレット、軍隊慰問、軍人遺族の慰安・救済等の運動です。これは日清戦争の時だけでなく、日露戦争、第一次世界大戦、支那事変、大東亜戦争の各時代へとずっと踏襲されて行くことになった日本のキリスト教界の大勢であります。これは自発的なものです。それゆえに日本のキリスト教界は天皇制軍国主義に妥協してキリストの福音に対する背信行為を行い日本のアジア侵略戦争に加担したのだという左翼的な歴史観からすると否定的評価しか下せないのでしょうか。しかし、そのような歴史観は民族国家の存立そのものを否定する左翼的な立場からの判断ですから事実を誤認していると言わねばなりません。日本は日本民族の独立国家を建設し、更に列強諸国の侵入によって植民地化されようとしているアジア諸国を救援する使命を次第に意識しつつあったのです。日清戦争当時のキリスト教界が戦争に協力した理由としては、

宣戦の詔勅に「東洋平和のため」とあるから

聖書に「王に従え」とある(ペテロ2:13-17、ローマ13:1-7)。だから国家存亡の戦いに従軍せよとの天皇の命令は天地創造の神の命令として従うべきである。後進的な清国文明を打破して、新文明樹

立に力を借す使命が日本に神から課せられている。

といったものが挙げられるでしょう。

しかし、こうした激動の時代のキリスト者が直面したのは、「汝の敵をも愛せよ。殺すなかれ」という主の御言と「王に従え」という

御言とどちらを取るべきかの選択です。教会は団体としては国家に協力しつつ、非戦の道は個人倫理としてキリスト者各個人の選択にまかせたのです。これは現代の私たちにとっても極めて大切な課題であります。(以下、次号に続く)



## 地域別とりなし祈禱会

### 1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師  
 〒001-0032  
 札幌市北区北 32 条西 5-3-27  
 TEL 011-717-1801 毎月第 2、第 4 日曜日午後 2 時

### 2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明  
 〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ  
 TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

### 3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄  
 〒335-0003 蕨市南町 3-3-12  
 TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

### 4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師  
 \* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)  
 \* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師  
 TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 4 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉  
 \* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)  
 \* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉  
 TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第 1 月曜日午後 1 時 30 分

### 5. 神奈川県

横浜市 : シオン・エルサレム教会 平瀬戸恵理牧師  
 〒220-0044 横浜市西区紅葉が丘 6-2  
 TEL & FAX 045-243-9135  
 email: a\_motherofnations\_sarah@jp-t.ne.jp  
 毎週第 2or 第 3 水曜日午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分

聖書とお茶の会 吉田久子姉  
 〒241-0836 横浜市旭区万騎が原 8-9 吉田方  
 TEL 045-363-5657  
 毎週金曜日午後 2 時

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師  
 〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17  
 TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119  
 URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>  
 毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

### 6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師  
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1  
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後 7 時 30 分

## 7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師  
〒420-0841 静岡市上足洗 4 丁目 6-16-7  
TEL 054-248-4058 毎月第 1 日曜日午後 2 時

## 8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・ローズマリー・バス  
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館 3F  
TEL 075-781-3330 毎週火曜日午後 7 時 英語の祈禱会

## 9. 大阪府

寝屋川市:日の出キリスト教会 滝本千歳牧師  
〒572-0835 寝屋川市中木田町 26-9  
TEL&FAX0720-22-9232 毎月第 3 木曜日午後 2 時

## 9. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師  
〒676-0015 高砂市荒井町紙町 1-34  
TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第 4 水曜日午後 9 時 30 分 ~ 12 時

## 10. 福岡県

福岡市内 : 福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師  
〒811-1344 福岡市南区三宅 3-33-1  
TEL 092-561-4232 毎朝午前 5 時 00 分  
  
伊都キリスト教会 友納徳治牧師  
〒819-0167 福岡市西区今宿井尻 12-4-1  
TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第 3 水曜日 7 時 30 分

## 11. 大分県

別府市 : フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師  
〒874-0933 別府市野口元町 10-1  
TEL & FAX 0977-26-3692  
e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp  
毎週金曜日午後 7 時 30 分

## 12. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師  
〒900-0031 那覇市若狭 2 丁目 9-5 毎週土曜日午後 6 時  
TEL 098 - 868 - 5641

## 2003年6月号祈りの焦点

### (1) 継続的課題

1) 公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

\* 創価学会が司法・警察・教育の各界に勢力を張っている実例

「赤旗」9月15日号の記事によれば、携帯電話の通話記録の盗み出しで有罪になった創価大学グループの一員が、それ以外にも対立団体の幹部たちの通話記録を盗んでいたとして告発されました。原告のSさん（女性）が警察からの嫌がらせめいた取り調べを受けたり、裁判に11名もの創価学会信者の弁護士たちが関わって執行猶予付きの有罪判決を勝ち取るなど意図的な法廷戦術を行使しました。

千葉県のア教師によれば、千葉県の教育界では創価大学出身の教師たちを校長にするようにと創価学会所属の県会議員が教育委員会に働きかけており、その結果かなりの数の創価学会信者の校長が生まれているということです。

2) カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

〔解説〕

\* エホバの証人、モルモン教、統一協会、創価学会、オウム真理教（アレフ）等のカルトは、反キリストの世界的組織によって生み出されたり、利用されたりして来たものといわれます。

\* キリスト教会の側に、カルト集団からの脱会者を受け入れるに相応しい受け皿が用意されるように。

3) 天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中であって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

\* ヘブライ大学のベン・アミ・シロニー教授は、その著「母なる天皇」（和訳2003年1月14日）の中で次のように述べています。

「母性的な天皇 - 『環境保護の象徴』」

“皇室制度が～中略～長い歴史のほとんどを通じて皇室を特徴づけてきた象徴的な母性像という形の中に価値ある役割を見出すことであり、それが皇室制度に存在意義回復の道をひらくかもしれないということである。その新しい役割とは環境保護ではないだろうか。神道は、森や滝、野性動物を崇敬し、農業との結びつきも深いところから他の諸宗教にくらべて環境志向の信条としての度合いが高い。天皇は神道の高位の神官として古めかしい種々の儀式に参加するが、そのことは近代的志向の日本人にとって長い間当惑の種子であった。しかし、将来それが環境にたいし賛美の捧げ物をする近代的セレモニーと目される日が来るかもしれないのである。昭和天皇は生命科学を関心の軸とする科学的研究という新しい伝統を宮中に持ち込んだ。毎年6月、天気の良い日を選んで天皇が稲を植えるお田植（たうえ）の儀式、春の年中行事で木を植える植樹祭を始めたのも昭和天皇である。裕仁（ひろひと）の没後、それまでの天皇誕生日の4月29日は「みどりの日」と改称され、環境保護のための国民の祝日となった。このような休日を選んだ国は日本が初めてである。（前掲書407頁）

4) 互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタン



ト、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

〔解説〕

\* リバイバル新聞3月9日号によれば、イギリスで福音派とカリスマ派が一致したと英国福音同盟理事長ロバート・エイメス師が同紙の記者のインタビューに答えている。

5) マルコーシュ・ミッションの働きが進展するように。また、リバイバル新聞の購読部数が2700部に増えましたので、更に5000部へと増えるように。また、リバイバル新聞の内容が更に充実したものとなるように祈りましょう。

〔解説〕

\* キリスト教出版社や書店が不況の嵐に耐えて存続し発展することが出来ますように。

6) TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

\* 毎日新聞社は創価学会の機関紙「聖教新聞」の印刷を引き受けているので、創価学会や公明党支持の傾向が強くなっています。

\* 朝日新聞5月15日号によれば、北朝鮮拉致被害者の曾我ひとみさんの許に届いた曾我さんの夫の住所を朝日新聞記者が盗み見た上、5月13日の朝日新聞に夫の北朝鮮の住所を掲載した件につき、曾我さんから新聞社に抗議があったので、深く謝罪したとのこと。

7) 日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記1:28)。

〔解説〕

\* 若い男女が結婚し、子供を育てることについて希望の持てる社会になりますように。

## (2) 時宜的(タイムリーな)課題

1) 小泉内閣が神を畏れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

\* 米国では、2001年9月11日の貿易センタービル・ペンタゴン等に対する同時多発テロの直後に米国議会において「愛国者法」(パトリオット・アクト)が提出され、10月下旬に可決されました。また、今回それに続いて「米国国土安全保護法」が可決され、「米国国土安全保障省」が設置されました。これらの法律は米国を警察国家へと変貌させるものと見られています。

\* 又、日本では、去年「住民基本台帳ネットワーク法」が成立しましたが、未だにいくつかの県・市・町などの地方自治体が反対して、全国ネットが完成していません。これに対して片山担当大臣がTVで「まことにけしからん。国が決めたものを地方が受け入れないとは間違っている。絶対に受け入れさせさせてみせる」と断言しました。これは今年5月に個人情報保護法及び有事法が衆議院で成立し、小泉首相がブッシュ大統領からキャンプデービッドに招かれて、アジアに対する協力体制を固めたことに基づく担当大臣の強気な発言と見られます。日本もまた米国と同じように警察国家へのステップを踏んでいるのではないかと危惧されます。

2) 日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

\* 4月号のこの解説記事にミスプリントがありました。それは日本の総人口1億2千7百万人に対するクリスチャンの人口比を「0.1%に及ばない」としましたが、これを「1%に及ばない」と訂正します。

3) 北朝鮮による拉致問題の解決があくまでも外交上の最優先課題とされ、拉致被害者の家族が日本に帰って来るように祈りましょう。

〔解説〕

\* 北朝鮮の工作船「万景峰号」に対し日本政府が厳しい立法措置をこうじるように。積荷検査だけでは足りません。日本の国益を損なう国の船や飛行機の入港、着陸を拒否できる法律が必要です。

4) 現在の金正日政権が崩壊して、北朝鮮が核兵器や生物・化学兵器の開発を速やかに放棄するように祈りましょう。

5) 日本が日本独自の外交・防衛のビジョンを持つことが出来るように祈りましょう。

〔解説〕

\* 日本が台湾との同盟関係を視野に入れたアジアにおける協力関係を求めて行くように。

\* 盛岡市の新渡戸稲造顕彰会では、10月18日に市内で開催する新渡戸稲造没後70周年記念行事として台湾の前総統李登輝氏を講師として招聘する意向であると発表しました(サンケイ新聞5月15日号)。外務省が李登輝氏にビザを発給するように祈りましょう。そのためにも台湾のサース(SARS)が一日も早く終息するように。

6) サース(SARS)ウイルスが日本に入ってくるように。又、世界の諸国に拡大しないで早く終息するように。

〔解説〕

\* サンデー毎日5月4日号には1990年代に現れた「キラーウイルス感染症」一覧表が記載されています。この中でエボラ出血熱はコートジボワール、ガボン、南アフリカで発生。サースは中国広東省から香港 世界へと広がっています。エイズはアフリカから中国へと蔓延しました。アフリカも中国もカリスマ的キリスト教リバイバルが急速に発展してきた地域です。

7) 日本における教育が健全な方向に導かれるように。

〔解説〕

\* 国際人として生きるだけの資質のある人が英語を身につけるようにするというのが文部省の基本方針であるといわれます。

\* しかしながら、毎日のテレビ放送ではむやみやたらと英会話が流されており、崩れた日本語が芸能人たちだけでなく、アナウンサーによって語られています。正しい、美しい日本語が回復できるように学校教育においても出版・放送メディアにおいても配慮されるように祈りましょう。

\* 高校教科書の中で、家庭科教科書の約半数に「ジェンダーに縛られない社会を築くことが望ましい」との思想が記述されています。これは所謂「ジェンダー・フリー」(男らしさ、女らしさからの解放)という新左翼思想に基づくもので、家庭崩壊を招く恐れがあります。教科書からこの思想が排除されるように。(参考:「正論」6月号 p.240「子供たちに家族解

体を教え込む教科書の恐怖」長尾誠夫)。又、聖書の人間観が尊重されるように。

8)長引く不況下にあっても、まずクリスチャンが、キリストにあって、この国が神と人々に用いられる未来と夢を握りつづけることができますように。そして、世の人々にも、主にある希望を語り続けることができますように。

〔解説〕

\* 政府は「りそな銀行」に対して国庫から 2 兆円を投入してこれを国有化する方針を決定しました。それにもかかわらず各銀行の不良債権はまだ 20 兆円あり、更に増加する見込みとされます。政府の財政担当者及び銀行関係者たちの上に神様からのお導きがあって、日本経済が回復に向かうように祈りましょう。

9)イラクの戦後回復が民主的な政府によって国連指導の下に行われるように祈りましょう。

〔解説〕

\* 日本緊急援助隊のリーダーとしてバグダット入りしているケン・ジョセフ氏によれば米 CNS 通信が「フセイン後の新政権は西側的な民主主義を目指すのか、それとも厳格なイスラム法を採用するシーア派支配の体制に向かうのか予断を許さない」と報じたことを伝えています。信教の自由のためには民主政治体制が望ましいと思われまます。

\* ジョセフさんは、クリスチャンにぜひ現地にボランティアに来て欲しいと呼びかけています。(以上、「クリスチャン新聞」6月1日号記事)

9)イスラエルの平和のために祈りましょう。

「見よ、イスラエルを守る者は、まどろむこともなく、眠ることもない」(詩篇 121:4)

〔解説〕

\* 米国が提案したロードマップは、第一歩としてアラファトが退いて代わりにアブ・メザンが首相に就任し、テロを根絶し、イスラエルを承認するというものです。これが連日の自爆テロによって不可能になっています。

\* マスコミは、パレスチナ側のイスラエルに対する自爆テロその他の戦闘行為をほとんどわずかに報道するだけで、ただ、イスラエルの反撃だけを不当な攻撃として報じ、ありもしない「ジェニン大虐殺(ホロコースト)」などを大々的に報じています。このマスコミの不公正な報道姿勢が正されるように祈りましょう。

\* アラブ人が自爆テロを完全に止めてヨルダン国籍を持つパレスチナ住民はヨルダンに引き取られ、中東に和平がもたらされるように祈りましょう。

## 《会計報告》(2003年2月1日～2003年3月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	94,020	交 通 費	49,120
		印 刷 費	0
		資 料 費	35,900
		郵 送 費	21,550
		事 務 費	5,360
		振替手数料	540
		電 話 料	12,461
小 計	94,020	小 計	124,931
前月繰越	107,732	翌月繰越	76,821
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	252,926	合 計	252,926

## 【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	2回	佐藤節代(神奈川)	1回
相模大野教会(神奈川)	2回	池田稔(東京)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	高田和彦(東京)	1回
三村二三雄(静岡)	1回	瀬木久子(埼玉)	1回
京嶋玲子(神奈川)	1回	広瀬幸司(千葉)	1回

## 【編集後記】

- \* ニュースレター2003年6月号をお届けします。
- \* 今回のトップレポートも、「日本宣教論」の続きで「第5波 欧米キリスト教の渡来」です。
- \* 叙述の仕方について色々と考えを練りましたが、やはりキリシタンの流れに沿って天主公教会の復興、ロシア正教会の日本伝道、そしてプロテスタント諸教会の日本伝道の順序で記すのが妥当であろうとの結論に達してからはペンの運びも順調に進みました。
- \* 天主公教会という呼び方はいつ現在のカトリックという公称に変わったのか。私には未だ確認できないでいます。昭和47年版の「キリスト教百科事典」エンデル書店刊では、まだ天主公教会となっており(カトリック)と添えられています。どなたか教えて下されば幸いです。
- \* ロシア正教会の司祭であったニコライ師は1881年

(明治14年)モスクワで主教に叙聖されています。そして、1891年(明治24年)に東京ハリストス(キリスト)復活大聖堂(ニコライ堂)が完成し、1908年にセルギイ師が京都の主教として来日した頃から大主教と呼ばれています。

\* しかし、ニコライ師の生涯は一貫して伝道者としての熱心な布教活動に終始し、変わることがありませんでした。

\* 最後にうれしいお知らせを一つ。地域別とりなし祈禱会の中に新しい教会が仲間入りして下さいました。神奈川県横浜市西区紅葉が丘6-2シオン・エルサレム教会です。牧師は平瀬戸恵理(ひらせと えり)先生です。

(ヨハネ 皆川尚一記)

## 《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2003年7月7日(月)12時

場所：日本キリスト教団 高砂教会

